

3 策定委員会・各種団体・議会・庁内等における主な意見

1) 策定委員会・各種団体・議会・庁内等における主な意見のまとめ

策定委員会、市民会議、市民、市議会、これからの市役所創造委員会、庁内から寄せられた主な意見を大まかに分類・整理すると、下表のとおりである。

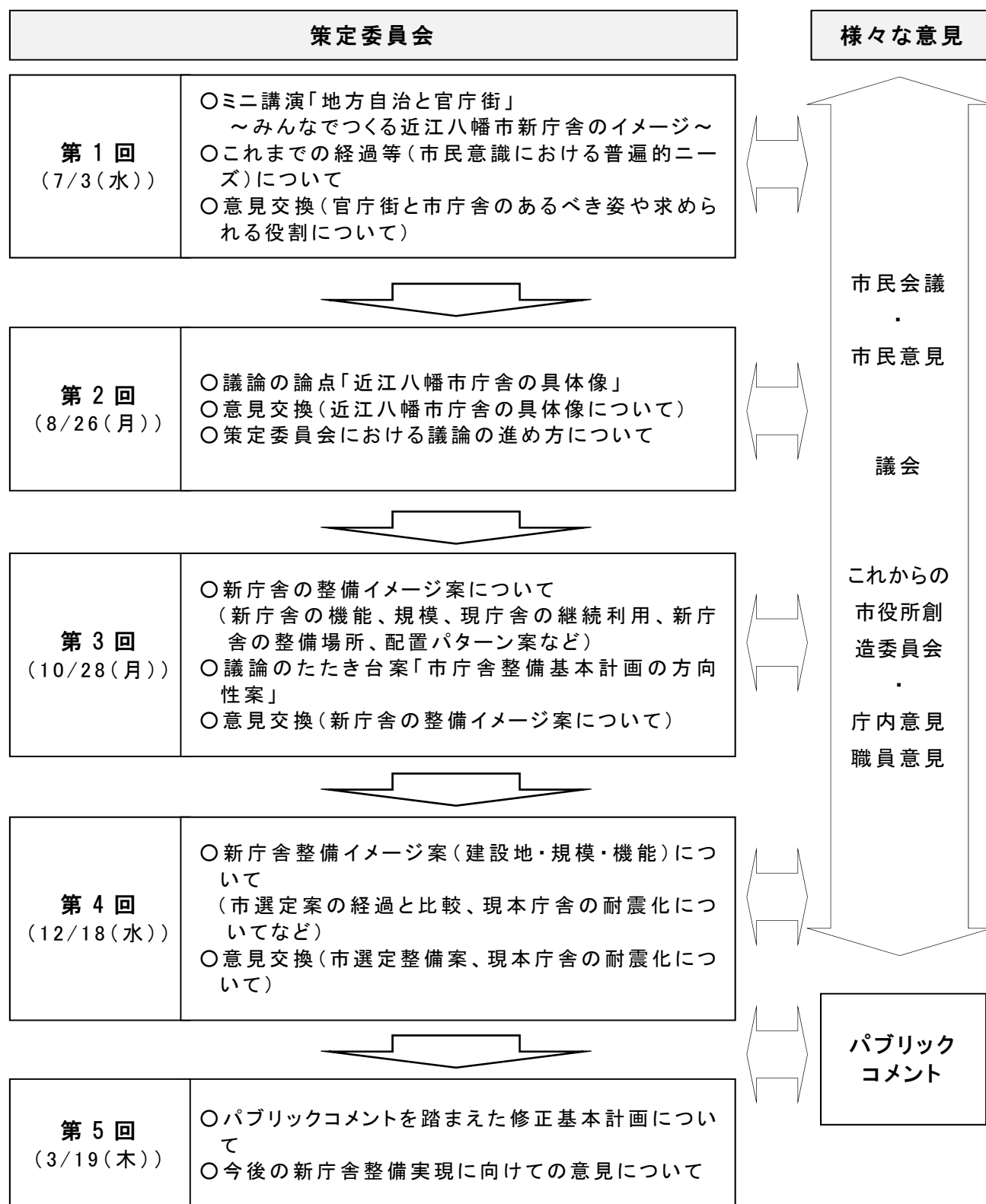
主な意見の キーワード	策定委員会	市民会議 市民意見	市議会	これからの市役所創造委員会 庁内意見
市民の利便性向上を 図るワンストップサー ビス	○窓口・相談のサービスのワンストップ化 ・関係部署が連携して市民が動かずに手続き・相談等が済ませられること ・子育て・高齢・障がいなどの保健、福祉、教育に関する部署の集約化を図る ・誰もが相談しやすい窓口づくり、じっくりと相談に乗ってもらえる安心の場づくり ○AIやICTを活かした行政サービスの充実(情報弱者への対応含む) ○行政機能を官房・防災系、市民生活系、事業系に集約しコンパクトな庁舎とする	○子どもの成長に応じた切れ目がない支援が必要 ○ワンストップで対応可能な新庁舎は安心 ○療育、幼児課、子ども支援課、教育委員会等は、連携のため集約化する	○高齢化社会を踏まえたワンストップフロアサービスを実施すること	○現在分散している高齢福祉や子育てに必要な福祉保険部・子ども健康部・教育部門を同じ建物内に集約する ○行政機能を1つの庁舎に集約し業務効率を高める ○コンシェルジュ機能やアシスト職員を配置したワンストップサービスの実現(ICTの活用) ○行政機能を集約し無駄を省くコンパクト化を行う
防災拠点機能の充実	○防災拠点として必要な機能の充実 ○災害時に行政が一体となって対応できるよう同じ建物内に職員を配置する ○防災に資する広場等の整備 ○現本庁舎は早急な耐震化が必要	○防災拠点としての新庁舎を設計	○防災拠点としての機能を備えること	○災害対策本部機能の強化 ○庁舎の耐震化と業務継続可能な設備強化 ○防災備蓄や一時避難に資する機能の充実 ○災害時の広域防災活動利用が可能な空間の確保
庁舎周辺との連携性 や既存公共施設の有 効活用	○市民のくつろぎの場として、コミュニケーションを大切にした場づくり、交流機能の充実が必要 ○庁舎・病院跡地の有効活用(広場等)を図る ○庁舎周辺の緑化、周辺公共施設と連携したにぎわいづくり	○各コミュニティセンターの有効利用を推進する		○近接する文化会館等既存公共施設との連携に留意すべき ○ひまわり館など既存公共施設の再整備による活用
将来的な事業費負担 への配慮	○コストの抑制を図る ・庁舎整備等に係るコスト縮減、既存公共施設の活用も含めたコンパクトな庁舎整備 ・現本庁舎を継続活用する場合は、耐震化・内部改修・維持費等のコスト面に留意 ○引越し・移動、工事のしやすさ等も踏まえた円滑な事業の実現に留意 ○将来の環境変化に柔軟に対応可能な庁舎づくり(フレキシブルに利用可能な施設導入、災害時と平常時の有効利用など)		○行政機能を集約した上で、無駄を省くコンパクト化を行うこと	○整備コストのほか整備後のランニングコストの縮減 ○庁舎内の利用時期が限定的な諸室のフレキシブルな利用 ○駐車場は有事やイベント時に多目的な活用ができる ○集中型の庁舎はインフラ関連設備を抑制できる
その他	○市政への関心が高まるような市民に開かれた議会(市民が傍聴しやすい空間づくり、閉庁時の有効利用など) ○行政サービスを支える体制の充実(官民協働、住民参加など)	○障がい者が安心して居場所や就労場所がある庁舎づくり		○質の高い行政サービスを提供する庁舎づくり(フリーアドレス、ペーパーストックレス、多様な働き方の選択、人材育成など) ○庁舎前広場での青空図書館

2) 近江八幡市庁舎整備基本計画策定委員会における主な意見

(1) 策定委員会のこれまでの議論の流れ

策定委員会における、議論の流れ（5回開催）は以下のとおりである。

各段階において、市民、市民団体、議会、庁内等の意見を踏まえつつ、議論を進めてきたものである。



(2) 策定委員会の主な意見(全体で5回開催)

策定委員会における主な意見は、以下のとおりである。

◆ 第1回策定委員会

(策定委員会だより Vol.1 より)

意見交換『官庁街と市庁舎のあるべき姿や求められる役割など』について

AIやICTを生かして行政サービスの充実を

- AIやICTをうまく利用し、素早く手続きができると便利。
- 市役所に行かなくても身近な公共施設で必要な書類や情報等が入手できると便利。
- 情報機器等の利用に不慣れな人(情報弱者)への対応が必要。

- AIやICT化を進めて、人ではできないことに時間を有効に使い、申請書類等の削減による庁舎規模の抑制、クリエイティブ(創造的)なことができるスペースづくりにつなげていく方向も有効。



市民交流・コミュニケーションの場としての機能の充実を

- 市役所は市民のくつろぎの場でもあり、AIだけに頼るのではなく、コミュニケーションを大切にしたい場づくりも必要。

- 福祉、介護、保育等の手続きや相談は、コミュニケーションがととても必要になるため、必要なスペースを取るとよい。

市民利用度の高い窓口サービスの一体化や、身近なサービス提供の検討を

- 1カ所で済ませようと思っても、特に子育て・障がい・福祉に関する部署が分散しており利用しにくい現状。ワンストップ化や、AI・ICT利用による利便性向上が望まれる。

- 高齢者など移動が大変な人にとっては、身近な公共施設等で必要な書類等が入手できると便利であり、各コミュニティセンターの活用も含めて検討を。

フレキシビリティ(柔軟な対応力)に留意した整備方向の検討を

- 各コミュニティセンターなど既存公共施設の活用とAI・ICTの利用を組み合わせて、身近な場所での行政サービスの提供が可能となる検討を。

- 人口減少に伴い行政職員の人員縮減が想定される中、フレキシブル(柔軟)に対応可能な行政組織のあり方も課題。

行政サービスを支える体制の充実を

- 市役所で行う様々なサービスと、元気な高齢者も含むボランティアの活躍の場をつなげて、行政だけでできないサービスを地域の力で充実させていくことも有効。

- 行政職員の人員縮減があっても、ボランティアや地域運営組織等の多様な担い手を増やして支援するなど、行政サービスのレベルを落とさない仕組みづくりが課題。

その他、今後の議論や合意形成の進め方、留意すべき事項 など

- 高齢者など交通弱者への対応も課題。
- 土曜日や日曜日しか市役所に行けない人への対応も課題。
- 今後の議論は、どういう場所・空間にしたらいいのか、有意義なのか、といった発想で、行政サービスや市民生活をイメージしながら進めていくことが大切。

- 全国から近江八幡市役所で働きたいと思えるような、魅力的な職場づくり、行政サービスを検討することも必要。
- 検討に際しては、過去の市民意見等も生かして、市民意見が少しでも反映できるよう、計画の検討段階から意見を把握・反映していくことが大切。



◆ 第 2 回 策 定 委 員 会

(策 定 委 員 会 だ よ り Vol. 2 よ り)

意見交換 『近江八幡市庁舎の具体像』について

市民の相談機能はワンストップで対応を

- 市民の相談内容は複数の部署にまたがることも多く、的確な案内や制度等含めた相談へのアドバイスなど、ワンストップで対応可能な新庁舎としてほしい。そのことが、安心できる相談や支援につながる。
- 小さい子ども連れの保護者、障がいがある方、高齢者の方々など、関連部署が分散しすぎて利用しにくく、複数の用事が1か所で一体的に利用できるような窓口サービス機能の集約化が大事。

防災拠点として必要な機能の充実を

- 現庁舎は対策本部機能も分散し、防災拠点としての機能も乏しく、新庁舎における防災拠点として必要な機能の充実を。
- 防災拠点は、市内を中心に広域対応もできる機能を備えた検討を。
- 会議室や情報収集・整理に必要な活動スペース、情報・通信ほか各種防災関連設備など、防災拠点としての活動を支えるために必要な機能の充実が必要。



議会は市民に開かれた方向となるよう検討を

- 議会と市民の距離が離れている感じがおり、気軽に話ができる場づくりが有効。
- 議場を防災本部として有効利用ができないか。
- 議場は、市民が傍聴しやすい空間づくりや、閉庁時にも交流スペースなど、市民が有効利用できるフレキシブルな検討を。

本庁舎の機能は現実面を踏まえつつ具体的な配置検討を

- 生活系や相談系は専門部署との連携が大切であり、各機能の内容を踏まえつつ集約か分離か具体的に検討すべき。
- 身近な場所で必要な書類が入手できて、相談ができるよう、各地域のコミュニティセンターをもっと活用してほしい。
- 旧市街地内の空き家活用は、まとまった敷地や駐車場の確保などの課題がある。
- 官房系と防災系の機能は、本庁舎にあてていい。



今後の議論や合意形成の進め方

- 早くたたき台案（整備のイメージ図など）を出して議論の具体化を進めてほしい。
- バックカスティング的な思考で、将来どのようなべきか、市庁舎や周辺の暮らしと結びつけながら、庁舎計画の議論を進めていければ。

ご意見をお寄せください



ご意見は、策定委員会での意見交換や検討の参考にさせていただきます。
ご意見を記入しメールや手紙で市庁舎整備推進室までお届ください。

◆ 第 3 回 策 定 委 員 会

(策 定 委 員 会 だ よ り Vol. 3 よ り)

意見交換 新庁舎整備のイメージ案について

市民への窓口・相談等のサービスのワンストップ化について

- 部署連携による子どもの成長に応じた支援が必要。
- 子ども、高齢者、障がい者などに配慮してほしい。
- コミュニティセンターなど、より身近な施設で提供するほうが良い行政サービスもある。
- ワンストップサービスを進めるためには、配置だけでなく縦割り行政を見直す必要がある。

障がいを持つ子どもの保護者からの意見（市民会議の報告など）

- 子育ての不安や戸惑いがあるから温かく受け入れてくれる庁舎づくりをしてほしい。
- 「住んでよかった」となるよう庁舎より福祉施策に予算を回すことも必要と思う。
- 障がいがあっても普段から庁舎を利用していたら災害時にも避難しやすい。
- 庁舎に障がい者の働く場や交流場所があれば地域の理解が広がり活性化する。

防災機能など全ての人が安心できる庁舎づくりについて

- 災害時に行政が一体になって対応できるよう、分庁舎でなく職員を集約した方がよい。
- 赤こんパスの停留所など交通手段の利便性もよくしてほしい。
- 三明川の治水と緑化を兼ねて病院跡地を芝生広場にしたい。

現本庁舎の継続利用の可能性について

- 今の耐震基準で改修したら耐久性が上がり再生可能。
- むしろ解体したほうが安くてきちんと新築できるのではないかな。
- 社会変化に柔軟に対応するため、新築するより30年程度の長寿命化をした方がよい。
- 解体するより耐震補強して魅力的な公共建築物にやみがえらせて使えばよい。
- 長期利用する費用を他の施策に回せるため現本庁舎の改修にお金をかけないほうがよい。

庁舎の整備パターン（集約・分散のあり方）について

【集約】

- 市役所は機能も含め1カ所に集中させるとワンストップ化や防災面によい。
- 集約して新築すると空いた敷地を自由に設計して活用することができる。
- 現敷地は病院敷地より広く9,000㎡の新築であれば十分に建つ環境があり仮設庁舎も必要ない。
- 将来を見据えた事業系の分散は、空き家の数、場所、使用可能かなど十分な検討をしてからでないとシフトできない。
- AIやICTが有効な業務を特定するのが重要。分散は業務によって判断すべき。

【分散】

- 庁舎が分散していても必要な機能は集約されている。
- 敷地間の道路をうまく利用してボンエルフ（歩車共存）のようにできる。
- 先端的なAIやICTのサポートがあれば建物が分散してもまとまる状況になる。
- 空間的な余裕を芝生や植樹にしておけば、将来必要になったときに活用できる。
- 市民に開かれた議会のために議場を市民開放すれば距離感が近くなる。

◆ 第 4 回 策 定 委 員 会

(策定委員会だより Vol. 4 より)

策定委員会の意見交換

市民の利便性向上を図るワンストップサービス

- ワンストップ化で弱者や高齢化社会に対応できる庁舎ができる (C'案)
- 建物内の移動距離でいうと市民の使い勝手の良さは変わらない (両案)
- 福祉や教育が同じ建物内に集約されることを重視する (両案)
- 行政機能の集約でコンパクト化や業務効率が進み無駄が省ける (C'案)
- 同じ敷地内でも分棟にすると結局はサービス低下になるのでは (B'案)



防災拠点機能の充実

- 庁舎が防災拠点機能を備え災害時に行政一体の対応ができる (C'案)
- 大地震でも災害対応ができるよう庁舎を新築したほうが良い (C'案)
- 病院跡地も現本庁舎敷地も浸水しないレベルまでかさ上げが必要 (両案)
- 庁舎整備ではないが市民広場は災害時に活用できる広場であり希望したい (C'案)
- 備蓄倉庫があるので病院跡地の市民広場を使えば良い (C'案)



庁舎周辺との連携性や既存公共施設の有効活用

- 南別館の利用は非常に大きな存在意義があり、使いにくいという意見もあるため、使うかどうかの位置づけは大きい (両案)
- フレキシブルな行政として、変化する時代に合わせた敷地活用や設計が可能であり良い (両案)
- 現本庁舎の長期活用は、市が環境に配慮したまちづくりをスタートするのなら良いが、コスト面からは納得できない

将来的な事業費負担への配慮

- 現本庁舎敷地はコスト抑制が期待できる (両案)
- 工事の影響が小さく、敷地を自由に使える病院跡地に建てた方が良いのではないかと、病院跡地ではなく、現本庁舎敷地を建設地とする理由が弱い
- 財源を考慮すると両案の整備費は似てくるが効率的な整備設計が可能 (C'案)
- 事業費を比較しても変わらないので現本庁舎の長期活用案より新築案が良い (C'案)

病院跡地の市民広場活用について

- 今回、市のシンボリックな市民広場が大きくクローズアップされた。庁舎整備の事業費には含まれないが、広い意味で庁舎周辺を考えながら検討されるべき (両案)
- コンセプトに基づいてみんなが待ち焦がれるような市民広場を具体的に検討して実現すべき (両案)
- 市道を緑地化することは維持費についても考慮する必要がある (両案)

現本庁舎の耐震改修工事について

- 耐震工事にもいろいろな技術があるのでより安く耐震化できないか (両案)

◆ 第 5 回 策 定 委 員 会

(策 定 委 員 会 だ よ り Vol. 5 よ り)

意見交換：『今後の新庁舎実現に向けた意見』について

基本計画(案)を踏まえた各委員の考え方や意見

機能的な庁舎の展望

- 市民にとって身近で使いやすいサービスが、将来的には市全体で機能的になることが理想。新庁舎はそれを踏まえてサービス提供能力の拡充を図るようにするべき。
- 人口減少に伴って職員数も減ることになれば、空いた新庁舎のスペースにひまわり館などの機能を収めることも将来的には考えられる。

ワンストップ化を実現する行政

- ひまわり館の発達支援センター機能と新庁舎の連携強化については、行政と市民が一体となって創り上げて方向性を示す必要がある。
- 市役所にどんなサービスがあるか分からない方のために、困りごとを伝えれば相談窓口を紹介してくれる機能が必要。職員の育成や組織の対応力が重要。

ハートフルな庁舎

- 明るく全体を見渡せる庁舎で楽しいと感じるような雰囲気づくりが重要。来庁すれば全て説明できる経験豊富で親切的な職員の配置が理想的である。
- 「弱者に強い庁舎」をつくっていけるように、ソフト面の意見や要望を取り入れて進めながら対策を講じてほしい。
- 庁舎建設にあわせて、市職員の接し方や仕事の在り方を考えていくことが重要。庁舎の機能やICTの活用などは、これをうまく支えるためのものである。
- 共生社会の中で全ての多様性をいかに受け入れられるようにするか、その思いが芽生えるような庁舎ができることが望ましい。
- 「誰もが相談しやすく居心地の良いハートフルな庁舎」が言葉だけににならないように、実感できる庁舎を実現して欲しい。

防災面

- 三河川の集中豪雨による洪水対策を念頭に、市民広場には建物ではなく防災公園の機能を備えた市民の拠り所にしてほしい。
- 防災倉庫はシンボリックな市民広場ではなく、新庁舎の近くに整備する方が連携しやすい。
- 病院跡地で備蓄品・資材・消防ポンプ車などを集中管理することが効率的。有事の際には応援部隊の駐車場や活動空間として、平常時には駐車場、パークアンドライド、イベントに活用できるようにしてほしい。

市民広場(病院跡地)の方向性

- 外国人観光客も集客できるシンボリックな場所が望ましい。例えば、野外ステージのような楽しいイベントでにぎわえば、周辺に宿泊施設や有名な飲食店もできて人が集まる。
- 現在の職員駐車場は、地球温暖化対策などの観点から、公共交通機関の利用など職員の通勤方法を見直すべき。

近江八幡らしさ

- 庁舎整備をきっかけに、未来社会に向けて人と人のつながりが育成され、豊かな近江八幡市が実現するイメージがよい。
- 少子高齢化や外国人との共生など、社会福祉や地域福祉の視点を取り入れた議論が必要と考える。
- 「弱者に強い庁舎」という市役所機能を備えることが、近江八幡市から行政のあり方を変革させていく近江八幡市らしさとなる。

3) 市民会議、その他市民の主な意見（パブリックコメントまでの意見）

市民会議（市民団体等が様々な意見交換を行う場、1 回開催）、および計画検討段階で市に寄せられた市民からの主な意見は、以下のとおりである。

a) 市民会議（障がい児者保護者連絡協議会、令和元年 10 月 8 日開催）

◆ワンストップサービスのあり方について

- 子どもの支援に切れ目がなく、子どもの成長に即して課題への連携が必要。
- 療育、発達支援、幼児課、子ども支援課、教育委員会是一緒が良い。子どもに関する連携が全て可能であることが大事。
- 高齢者介護の窓口もワンストップ化してほしい。
- 職員の事務的な対応が来庁者を緊張や不安にさせる。職員の挨拶と声掛けがあり、来庁者に寄り添った話しやすい環境づくりが必要。
- ICT活用で仕事が効率化されて来庁者の相談が充実すれば良いが、AIには情と温か味がないから人との関わりや支援が大切。

◆既存施設を含めた庁舎の機能や連携について

- 健診は、一緒になくてどこでもいい。近くの出張型が理想で行きやすい。子どもセンターなど行き慣れた場所が良い。
- 障がい者は、自分の居場所があることや健常者と交流など社会参加を通して成長を大きく育む。そういう場所が新庁舎にあれば良い。
- 庁舎内にコミュニティカフェのような障がい者の就労場所があれば良い。

◆その他について

- 窓口にも介助者用のスペースがほしい。
- 多目的トイレや授乳室が必要。
- 車いす利用者のためにエレベーターが大きければ良い。

b) その他の市民からの主な意見（パブリックコメントまでの意見：延べ 6 人回）

◆ワンストップサービスのあり方について

- 子育てや障がい者、教育においてワンストップサービスの強い要望があり、市民生活関連系の分散化は望ましくない。
- 新庁舎でもスピーディーに処理し、あちこち行かなくて良いようにしてほしい。

◆防災拠点機能の充実について

- 近隣の市庁舎も参考にして防災拠点の機能を備え、災害時には危機管理センターとしての役割を果たせるコンパクトでスマートな新市庁舎としてほしい。
- 頻発する自然災害を鑑み、「強靱な防災庁舎」を重要なテーマとしてとらえておくべきであり、非常用発電機、備蓄、エネルギーの多重化、自然エネルギーの活用、空調・照明等の高効率機器の活用によるコスト削減など、非常時の機能維持は特に配慮すべき内容と考える。

◆既存施設を含めた庁舎の機能や連携について

- 分棟型の新庁舎整備は、ワンストップサービスが制約されるほか、工期的なロス、単体の庁舎建設に比べてコスト増につながり経済性や財政的にも疑問である。

◆その他について

- 読書は楽しみの一つだから市役所で本を借りられると良い。
- 現本庁舎敷地内における新庁舎整備に際しては、既存土中壁の有効活用を。
- 市民広場の整備に際しては、駐車場は極力周辺市有地の有効活用で確保し、広場空間の充実に注力すべき。

4) これからの市役所創造委員会、その他の庁内の主な意見

行政運営の中心的な役割を担っていく若手職員で構成された「これからの市役所創造委員会」から、新庁舎での働き方や職場環境・機能等について調査研究した報告書が提出された。意見の概要は、以下のとおりである。

「これからの市役所創造委員会報告書(令和元年12月)」より抜粋整理

◆提案1 市庁舎機能

【方針】心地よく、いつまでも使いやすい機能を備えた市役所

・行政機能の集約

来庁者の遠方への移動が必要とならないよう、来庁者の用務に応じた機能を集約、ワンストップ化を行うことで、移動を最小限にすることが可能となり、来庁者の利便性の向上や、職員・部署間の連携の強化を図る。その際にユニバーサルデザインを導入することで来庁者の利便性や職員の使いやすさを向上させる。

・業務効率を高めた部署配置、受付窓口の集約

窓口対応のワンストップ化を行えるよう関連部署を近接配置し、移動が必要となる場合でも、来庁者のフロア移動距離を短くする。そのために通路を十字にして部署配置する、分かりやすい案内のためフロアを来庁目的で色分け表示する、業務内容が伝わりやすい課名に変更する、スムーズに行き先がわかる足元のラインを設置する等の対応を行い来庁者に配慮する。

・心地よい空間作り

来庁者や職員がストレスを感じにくい市役所にするため、壁面や床面の色使いから照明に至るまで、空間作りを工夫する。市役所の案内表示や通知物は、独自のカラーやフォントを用いて統一感のあるものにする。

・ペーパーストレスの実施

業務の円滑な執行や情報セキュリティで問題が発生しないよう、自席キャビネットを廃止、個人収納ボックスの導入、電子化による書類の削減などを順次実施する。

・フリーアドレス（グループアドレス）を採用

民間企業で取り入れられているABWの考え方を導入した仕事の環境づくりを行う。執務室は、フリーアドレスやグループアドレスを採用し、Wi-Fiの整備や業務用モバイル端末を導入し、業務特性に応じた最適なレイアウトにし、来庁者にも働く職員にも快適となるよう配置する。

・多用途な空間の活用

特定の目的で造られた部屋が、目的以外に使えずデッドスペースとなってしまうのを、来庁者や職員の多用途な空間活用を推進する。

◆提案2 行政サービス

【方針】 来庁者がストレスフリーな市役所

・ ワンストップ窓口の創設

各窓口で来庁者を待たせることのないよう、来庁者が移動することなく行えるワンストップ窓口を導入、併せて窓口専門部署を創設する。これによりアウトソーシングを見据えた発展的な検討が可能になり、来庁者の一連の手続きが1ヶ所で行えるため、利便性が向上する。

・ コンシェルジュ機能を備えた総合窓口の設置

来庁者にとって市役所は非日常的な場所であり、うまく自身のニーズが説明できず、いくつかの部署をまわってしまう、専門職ごとに手続き内容について説明を受けなければならないといった負担が考えられる。これを軽減するため、コンシェルジュ機能を備えた総合案内の設置を行い、複雑多岐にわたる行政サービスに対して丁寧に案内を行い、来庁者に寄り添った市民が安心できるサービスの提供を行う。

・ ICT技術等の導入による手続きの最適化

窓口対応は紙媒体からICT技術等を活用したものに切り替え、申請書の記入や手続きの簡略化を行う。また、ICT技術を用いた手続きに不慣れな方のために出来る限り簡潔かつ明瞭な書式にした共通申請書の導入し、書類作成や押印の手間の軽減、様式の複雑さによる記入誤り等を防ぐ。将来的にはICT技術の活用により自宅から電子申請を可能にし、手続きの内容によっては来庁せずに手続きを行えるようになる等、利便性の向上を目指す。

◆提案3 職員の働き方

【方針】 働きやすい環境を整え、質の高い行政サービスが提供できる市役所

・ 職員の自由に使える空間の整備

職員が自由に過ごす場所を確保するため、執務室以外にも、気持ちを切り替えられる空間を設置し、職員の業務効率を上げ、質の高い行政サービスの提供に繋げる。

・ 職員を支援する取組の実施

既存の取組に捉われず、新たに職員が職員を支援する仕組みづくりを行う。例えば所属を超えたメンター（後輩を支援する先輩）制度の取組み、職員を紹介する庁内新聞の発行など、部署を超えた応援体制づくりをすることで職員同士の交流に繋がる。また、職員育成のため、民間企業との人事交流を実施し、組織の活性化と人材の育成に繋げる。民間との交流は企業のノウハウや内部育成だけでは得られない知識やスキル、多角的な視点を職員に身につけさせるといった効果があり、組織力を培い、質の高い行政サービスの提供につながる重要な取組になる。

・ 内部申請、事務等の電子化

現在、各職場での内部手続きに係る書類申請などは効率が悪いとため、紙や押印で行っている内部手続きの電子化を行う。これにより本来の業務に就く時間を増やし、行政サービスの質の向上や、時間外業務の抑制に繋げる。

・ 勤務形態の弾力化

職員の離職や内定辞退に繋がるケースを防ぐため、勤務体系の弾力化を行う。部署によっては自由な勤務形態が可能となるテレワークやフレックス制を導入し、多様な働き方が選択でき「働きたい」と思える職場となり、職員の質を向上させる。また、福利厚生の実充や、採用時の市役所説明会や本市の魅力発信の実充、育児や介護、配偶者の転職等の事情により退職した職員の再雇用制度等を導入していくことで、リクルートにおける良質な人材の確保と転職等による貴重な人材の流出を防ぐ。

5) その他の庁内の主な意見

その他庁内意見シート等に基づく、庁内の主な意見は以下のとおりである。
(上記「これからの市役所創造委員会」以外の主な意見を整理)

◆ワンストップサービスのあり方について

- 市民負担が少ないワンストップサービスの提供や、組織横断連携が図れた効率的な行政執務連携等の観点からは、行政機能を極力集約する方向が有効である。

◆防災拠点機能の充実について

- 災害対策本部機能の強化が必要である。
- 庁舎の耐震化と業務継続可能な設備強化が必要である。
- 防災備蓄や一時避難（特に観光客や帰宅困難者等の避難支援）に資する機能の充実が必要である。
- 災害時の広域防災活動利用が可能な空間の確保が必要である。

◆既存施設を含めた庁舎の機能や連携について

- ひまわり館など耐震面含めて有効活用可能な既存公共施設について、再整備検討を含めて活用を図るべきである。
- 現本庁舎周辺における新庁舎整備に際しては、近接する文化会館等既存公共施設との連携に留意すべきである。

◆将来的な事業費負担への配慮について

- 整備コストのほか整備後のランニングコスト（維持管理費・補修費など）の縮減に留意すべきである。
- 行政機能を極力集約した庁舎整備は、インフラ関連設備投資・運用等に係るコストの抑制面で有効である。
- 庁舎内の利用期間等が限られる各種施設（防災対策本部・議会等の諸室）については、利用しない期間等の多用途利用を図るなど、フレキシブルな利用が有効である。
- 将来の人口変動や市民ニーズの変化、職員の執務形態の変化等を見据え、将来変化にフレキシブルに対応可能な施設内容としていく必要がある。
- 駐車場は災害時やイベント時における多目的な活用ができるよう、フレキシブルな利用に留意すべきである。

◆その他について

- 庁舎敷地内広場における交流等の場の提供（青空図書館など）も有効である。